

公立小松大学重点研究「みらい」 研究実績報告書

氏名	所属・職名		助成金額
朝倉 由希	国際文化交流学科准教授		500,000 円
研究課題名	自然環境と文化の結びつきに関する研究 ～小松市内の里山をフィールドとして～		
研究期間	2021年 6月 1日 ～ 2022年 3月 31日		
研究の概要	<p>〔研究開始当初の背景, 研究の目的, 研究の方法等について記入〕</p> <p>地域の自然資源と文化資源の関連は強いことが指摘され、生物文化多様性という概念も生まれているが、自然と文化の関係や環境の持続可能性との関連までを視野にいれた議論は少ない。本研究では、小松の里山を対象にフィールドワークを行い、対象地域の自然環境・自然資源と文化の関連を調査することで、ローカルに根差した自然共生社会のあり方を提示することを目的とする。環境省の「生物多様性保全上重要な里地里山」に認定されている小松市滝ヶ原地区を対象に、独自の自然環境の中で形成されてきた地域の文化について、文献調査や地元住民のヒアリングを行い、詳細に調査する。「石の文化」などすでに顕在化している文化資源だけでなく、暮らしの中にある有形・無形の文化を、調査を通じて掘り起こす。そのうえで、自然と共生する社会に向け、小松にある文化がどのように寄与しているのかを、他分野の研究者やアーティスト、地域住民との対話を通じて提示する。</p>		
研究の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・滝ヶ原町の住民ヒアリングと資源調査 住民は、人口減少が進む中でも、地区のシンボルである鞍掛山の整備や、日本遺産構成資産である石切り場跡、アーチ型石橋周辺の整備に力を入れ、自然と文化の保全を軸に、来訪者増加に結び付けようとしている。また、近年では地区の魅力にひきつけられた外部人材が移住するようになり、その動きに引き寄せられるように、関係人口の増大も進んでいることが分かった。従来の住民がとりくんできた地域活動の運営に、移住者も加わるなど、両者の融合が進んでいる。滝ヶ原地区は学生の地域実習対象地域として、学生とも調査活動を行った。滝ヶ原の文化資源や風景、住民インタビューから引き出した言葉を映像、冊子等にまとめた。自然資源の調査は十分に行えなかったため、引き続き取り組む予定である。 ・ワークショップ、講演会の開催 調査を進める中で、滝ヶ原地区周辺には石はもとより、自然の素材や風景を題材に創作活動を行う人々が集まっていることが分かった。生物多様性をテーマに活動するアーティストを招き、自然とアートと里山を関連づけたワークショップを実施し、対話を深めた。また、里山の価値を産業につなげる事例に学ぶための講演会も実施し、参加者と議論を深めることができた。 		
研究成果発表状況	<p>〔学術誌掲載論文, 図書, 学会発表, 新聞掲載, 研究に関連して作成したWebページ等について記入〕</p> <p>地域実習の一環として学生とともに、映像や冊子を制作した。 映像 https://www.youtube.com/watch?v=-QpObSvcGoI 360度画像マップ https://smapano.com/pano?flag=3&projectId=2643&locale=ja&start_scene=18970 冊子 https://saas.actibookone.com/?cNo=277595&param=MV8zXzc=&siteNum=8397&siteTitle=&pNo=20 ワークショップ、講演会に関しては映像編集後、公開予定。</p>		
経費の執行状況	区 分	執行額 (円)	備 考
	機材、備品 消耗品 謝金、旅費 アルバイト人件費 施設使用料	150,044 27,977 230,288 10,000 12,500	ビデオカメラ、カメラ、SDカードなど インク、ファイルなど インタビュー、ワークショップ、講演等謝金